

# 青森県現地調査レポート

「エネルギー・原発関連問題」への調査活動に取り組む中、国の原子力政策に関わりが深く、エネルギーの一大拠点として発展を続けるむつ小川原地区と、県内の原子力発電所を訪れました。

**新むつ小川原株式会社 前代表取締役社長 永松 恵一 様**  
**むつ小川原アシスト株式会社 代表取締役社長 小笠原 光孝 様**

むつ小川原地区への訪問では、同地区における工業開発計画を担われていた永松様(元 経団連常務理事)はじめ、新むつ小川原株式会社の皆様にご案内いただきました。各施設でも丁寧なご説明を頂戴し、大変貴重な機会となりました。この場を借りて感謝を申し上げます。



▲写真右から小笠原様、永松様

## むつ小川原地区① 風力発電所・太陽光発電所

気候条件等に恵まれた青森県は、風力発電の設備容量で全国首位、太陽光発電も全国有数のメガソーラーが立地。安全かつ効率的な運転に向けた工夫や、洋上風力など再生可能エネルギーの更なる開発計画を知ることができた一方で、発電設備を外国製に頼る状況や、安定供給を行う上での課題も認識しました。



## むつ小川原地区② 原子燃料サイクル施設

六ヶ所原燃PRセンターで、各原子燃料サイクル施設のご説明をいただきました。使用済み核燃料の再処理工程や、低レベル・高レベル放射性廃棄物の貯蔵管理状況などを知ることができ、発電後の燃料の行方について考えさせられました。3階展望ホールからは、安全強化に向けて長く工事が続いている再処理工場も見えました。

## むつ小川原地区③ 石油備蓄基地・核技術研究施設等

日本初の国家石油備蓄基地(写真左)には、51基のタンクに国内消費量13日分の原油が貯蔵されています。環境アセスメントを行い、緑地に馴染む色合いにしたそうです。他にも同地区では核融合エネルギー等の研究(写真右)、データセンター等の産業立地、それらに伴う宅地分譲等、エネルギーを中心とした地域開発が進んでいました。



## 大間原発・東通原発周辺から

その後、県内の原発周辺を訪れました。むつ小川原地区の北部に位置する東通原発(写真左)は再稼働に向けて安全対策中。本州北端の大間原発(写真右)は、原子燃料サイクルによって生まれるMOX燃料を用いる発電所として準備中です。後者の周辺には漁港や住宅地もあり、稼働には安全確保が大前提であると再認識しました。

### 【事務局所感】

生活に必須なエネルギーだからこそ、考える際に発電コスト、安定供給、環境負荷など多くの論点があるのだと改めて感じました。中でも原発特有の核廃棄物という課題について、今回間近で触れられたことは貴重な経験です。同じく現地に赴いたフィンランド等の例も参考に(P.15)調査活動を継続してまいります。